資料４

大賀委員からの提供資料について

令和８年度第１回福岡県肝炎対策協議会資料

日本肝臓病患者団体協議会(日肝協)顧問
大賀　和男

国会請願
６月議会で採択

**ウイルス性の肝がん・重度肝硬変患者への支援と
Ｂ型肝炎ウイルスを排除する薬剤の開発を求める**

1.　ウイルス性の肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の実態に鑑み、日々苦しんでいるウイルス性の肝がん・重度肝硬変患者への一層の救済を検討してください

私達患者団体が長年要望してきた「ウイルス性の肝がん・重度肝硬変患者の医療費助成」が平成 30 年 12 月から治療研究促進事業として開始されました。令和 3 年と令和 6 年 2 回にわたり制度が改正されたものの、国が推計した助成見込み数よりも実績数が大幅に少ない状態が続いており、まだ十分ではありません。
令和3年度から令和4年度にかけて兵庫県で行われた調査では、本研究事業の対象患者は治療を受けた患者の13%に留まるという調査結果も出ています。（肝臓 65 巻 12 号 575-580（2024)「兵庫県における肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業に関する実態調査」）
制度開始から７年以上が経過しますが、患者の多くが救済の対象となっていません。この実態を勘案し、研究事業の充実による患者の一層の救済を検討してください。

2.　Ｂ型肝炎ウイルスを排除する薬剤の開発と実用化を一層促進してください

世界中の様々な研究機関や企業がＢ型肝炎ウイルスを排除する創薬に向けて研究を推進していますが、未だ実現していません。核酸アナログ製剤によりＢ型肝炎ウイルスの増殖は抑えられ、病状は安定しましたが、生涯飲み続けなければならない負担とウイルスが消えないことによる発がんへの不安を抱え続ける毎日は、精神的に大きな重荷となっています。
世界中のＢ型肝炎患者がＢ型肝炎ウイルスを排除する薬剤の早期開発を待ち望んでいます。Ｂ型肝炎の機能的治癒をめざす薬剤とウイルスを排除する薬剤の開発と実用化を促進して、安心して暮らせるようにしてください。

**5月26日
衆議院会館で院内集会。衆参両議院に要請行動**



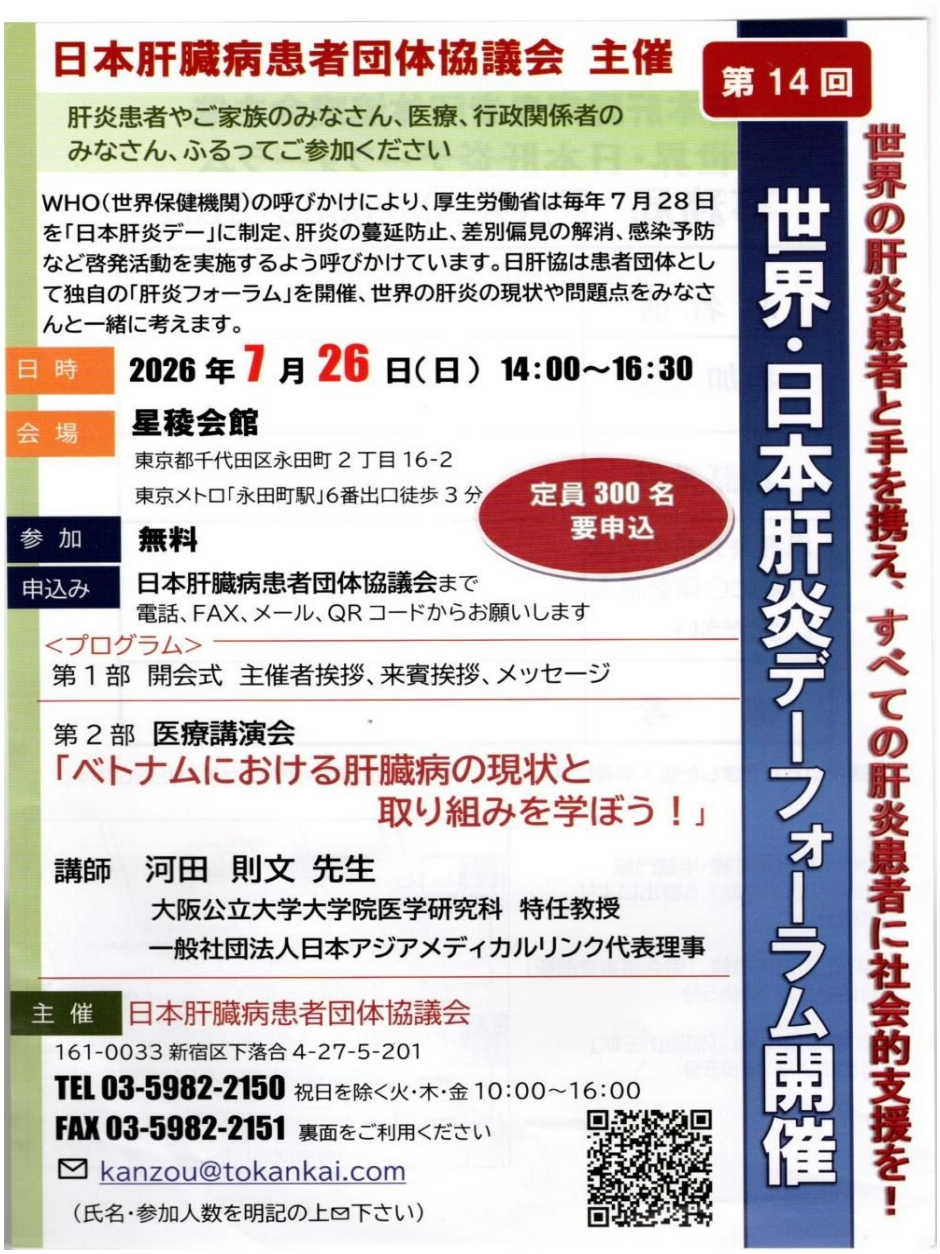


**田村憲久･元厚労大臣
（肝議連会長）**



**福岡資麿･前厚労大臣
（肝議連事務局長）**







7月26日
東京で開かれた世界・日本肝炎デーフォーラム

福岡県肝がん・重度肝硬変医療費助成制度実績

調査項目	参加者証 交付申請受付数 （実績値）	参加者証 交付数 （実績値）	治療費（助成） 支払件数 （実績値）	指定医療機関数（累計）
	月末時点の件数を記入 ※「参加者証」は、自治体によって、名称が異なるようです。	月末時点の件数を記入	月末時点で把握した診療月を基準とした支払（償還払いを含む）件数を記入（例：2月末に12月の支払件数実績を12月の欄に記入）	月末時点の件数を記載。

※前月回答件数に変更が生じた場合、最新の件数を記入すること。

	合計	合計	入院	外来	合計
令和7年4月	3(更新1)	11(更新6)	12	15	71
令和7年5月	2(更新1)	5(更新1)	9	15	72
令和7年6月	3(変更1更新2)	3(更新1)	6	13	72
令和7年7月	5(更新4)	5(更新2)	9	15	72
令和7年8月	7(更新4)	5(更新4)	8	16	73
令和7年9月	4(更新1)	7(更新4)	6	13	73
令和7年10月	6(更新4)	4(更新1)	3	12	73
令和7年11月	3(変更1更新1)	6(更新4)	8	10	73
令和7年12月	8(更新3)	3(更新1)	10	12	72
令和8年1月	7(更新7)	8(更新3)	6	12	72
令和8年2月	8(更新3)	5(更新2)	6	8	72
令和8年3月	5(更新2)	5(更新2)	8	9	
計	61(変更2更新33)	67(更新31)	91	150	

	合計	合計	入院	外来	合計
令和8年4月	4(更新2)	1(更新0)	4	6	72
令和8年5月	2(更新1)	2(更新2)	5	5	72
令和8年6月	7(更新5)	8(更新5)	6	2	72
令和8年7月	10(更新3)	14(更新5)			72
令和8年8月	5(更新5)	5(更新5)			72
令和8年9月					72
令和8年10月					
令和8年11月					
令和8年12月					
令和9年1月					
令和9年2月					
令和9年3月					
計	28(更新16)	30(更新17)	15	13	

◆10日1日に開かれた厚労省肝炎対策推進協議会での
発言(日肝協委員)内容を審議した日肝協幹事会の一部内容◆

新たに就任された森光健康・生活衛生局長に確認とお願いがありますので、発言いたします。前任の大坪局長より引き継ぎがあったこととは存じますが、確認をお願いします。

重度肝硬変・肝がん患者治療研究促進事業は、２０１８年１２月より助成見込数を月に約７，０００件と見込んで実施されました。しかし、事業開始より約９年の年月が経過し、２回の改正がなされたにも関わらず、現在でも約７％程度の活用しかなされていません。

●…田村憲久・元厚労大臣(肝臓議連会長)が厚労省に抜本的対策を求める

２０２５年１２月１日の肝炎対策議員連盟第１３回総会で、田村憲久会長より、「肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業で一定数伸びたと厚労省から聞いたが、予想していた月７，０００人という数字には全然追いついていない。一体どういうことなのか説明いただきたい。本当に必要な方々に広げていくためにどうすべきか討論していかねばなりません。財務省の高い壁をやっと乗り越えたにも関わらず、乗り超えた向こうに壁があるという状況を早く何とかして、本当に必要な方々にこの制度がしっかりと行きわたるように議論したい」と発言がありました。

●…大坪寛子局長(当時)が改善策を約束

その発言に対し、大坪寛子局長は「本事業につき、最新の知見を整理した上、ご納得いただけるような考え方を期限を切ってお示ししたい。周知については、どういう医療機関が本事業を認知していないのか調べたい」と回答されています。

さらに、田村会長から、「こんな進んでいかないのは何でだろうというのが、我々の思いです。もっと目標を持ってください。その通りになってない。ちゃんと目標数字を持って、できなかった時には改正して、少なくともその目標数値の半分を超えないとどうしようもない。今回は不断の思いでしっかりやっていただきますようにお願いをいたします」と発言がありました。私たちも同じ思いです。

議連総会での発言でしたので、大坪室長からはその回答を聞くことなく退任されました。
さらに、今年度にはＢ型肝炎の薬剤開発とウイルス性肝がん・重度肝硬変の医療費助成の適用拡大を求める国会請願を行い、衆議院と参議院の厚生労働委員会で採択されています。

森光局長、ウイルス性肝がん・重度肝硬変の医療費助成の適用拡大に向け、今こそ断腸の思いで制度改革を図っていただきたい。重度肝硬変・肝がん患者には時間がありません。待っておれないのです。これらの状況を十分にご理解いただき、重度肝硬変・肝がん患者治療研究促進事業の大胆な改革を宜しくお願いいたします。　以上です。